

	質問・意見等	回答等
1	説明の中に、増築の話があったが、ぜひとも増築案を進めてほしい。第九中学校区にあるマンションの建て替えが進んでおり、爆発的に増える可能性がある。東泉丘小学校区にマンションが建設されるなど児童数が増える見込みはあるが、あくまで推計であって、確実に児童数が増えるか分からない。また、増設すると運動場が狭くなって子どもたちに不利益になるという説明があったが、教室の上階にプールを作るという方法もある。市の資金が乏しい中、難しいことだと思うが、地域や子どもたちの気持ちを無視するのではなく、地域が納得できる形で検討を進めてほしい。増築に関しては、検討したとおっしゃったが、どの程度検討したのか。	増築案につきましては、具体的な工法や資金の検討など、十分にできていない部分があります。しかし、仮に運動場に4階建の校舎を増設すれば約8億円かかると聞いております。さらに、プールを屋上に作れば、当然それを上回る額になります。また、マンションが予定どおり建設されれば、平成32年には1,086人まで児童数が増えるというデータがあります。平成23年度にも4教室増築しており、今回増築したとしても、校区内には住宅建設が可能な土地があることから、さらに児童数が増加する可能性があり、教室が不足する度に増築しなくてはならなくなります。また、増築すれば運動場が狭くなり、使い勝手が悪くなるという問題があります。そのような状況から、現段階においては、増設でなく、通学区域の変更の方向性で検討しているところです。
2	事務局案では、東泉丘小学校に近い箇所も含めて、新千里南町3丁目全体が南丘小学校に変更になるということだが、その案よりも新千里南町3丁目にある阪急オアシス前の交差点を境にして、マンション側は南丘小学校区、戸建住宅側と東泉丘2丁目を東泉丘小学校区にすれば良いのではないか。	新千里南町3丁目のマンション側と、戸建住宅側とで通学区域を分ければどうかという意見は、以前から伺っており、検討を進めてきました。しかし、街区で分けると、自治会など地域コミュニティを分断することになり、地域活動の妨げになる恐れがあります。現在の検討状況としては、街区で分けるのではなく、新千里南町3丁目という丁目単位で変更する方向性で検討を進めているところです。
3	校区変更の発端は、東泉丘小学校の教室不足による教育環境の悪化を防ごうとするものである。戸建住宅側は、子どもの数が少ないので、マンション側だけを南丘小学校に変更しても、本来の目的からは外れない。子どもの通学時間や通学路の安全を考えると、少しでも近い学校に行かせてあげたい。新千里南町3丁目を一律に南丘小学校に移すのではなく、きめ細かい対応をしてもらいたい。	今回、東泉丘小学校が直面しているのは教室不足の解消ですが、本来の趣旨は、子どもたちの教育環境を整えるということです。「新千里南町3丁目の子どもたち」という大きなくりで考えることが必要で、通学路で見守りをしておられる方々は、どの地域の子どもたちであっても分け隔てなく見守ってくださっているものと認識しております。地域の方は、東泉丘小学校に通う子どもたち全員を守り育てるという考えをもっておられると思いますので、単純に距離だけで校区を区切ることは難しいと考えております。
4	PTAは、通学路の安全確保を重視し、歩車分離式信号機の導入を進めてきた。新千里南町3丁目の阪急オアシス前の交差点は、警察とも協議したが、吹田側の歩道が狭いということで歩車分離式信号機にはできなかった。その交差点は、若い女性の死亡事故があるなど、以前から危険な箇所という認識がある。マンション側は南丘小学校区、戸建住宅側と東泉丘2丁目を東泉丘小学校区とする案であれば、子どもたちはその交差点を渡らず済むので、通学路の安全確保という面からみても良いので、今後も検討してほしい。	(意見・要望のため、回答しませんでした。) 【事務局の考え方】 通学区域について、街区で線引きすれば、自治会等の地域コミュニティを分断することになり、地域活動の妨げになる恐れがあること、また同じ地域で通学する小学校が異なることとなり、登下校時の見守り体制や安全面で不安が残ることなどから、丁目単位での変更を考えております。 なお、登下校時の安全確保は重要な観点ですので、今後、関係部局・機関・団体等と連携しながら、街灯のLED化、信号機の設置、横断歩道、通行注意喚起など必要な措置を検討してまいります。
5	校区変更については、最終的には行政が決定するので仕方がないと思うが、親も含めて、子どもたちへの負担が極力少ない納得できる策を考えてほしい。	ご指摘のとおり、子どもたちや保護者の負担軽減について、十分に配慮して、対応する必要があると考えております。 【事務局の考え方】 南丘小学校の児童が受ける環境変化への不安等に対する十分な配慮が必要と認識しております。たとえば、平成28年度の1年間は周知及び準備期間とし、事前の交流活動の充実や教職員体制の配慮等、今後、その対応策を幅広く検討してまいりたいと考えております。
6	私は新千里南町3丁目に住んでおり、中学2年生と小学3年生の子どもがいる。小学3年生の子が5年生になる時に南丘小学校に移ることになるが、以前に開催された説明会では、在校生は東泉丘小学校でそのまま卒業して、新1年生から数年かけて移行するという案が有力だと聞いた。その案だと下の子が転校することはないので、納得していたが、今回示された案に変更になったのか。	本日は、決定したことを説明する会ではなく、現時点での検討状況を報告させていただき、事務局案に対する皆様のご意見を伺わせていただくという趣旨で行っております。特に、経過措置等については、まだ検討の余地がありますので、本日いただいた意見は持ち帰り、検討させていただきます。 【事務局の考え方】 平成29年度に新1年生となる新千里南町3丁目の子どもたちから順次、南丘小学校に変更することも考えましたが、変更当初に低学年の子どもたちだけで登下校させることの危険性や、同じ地域の子どもたちが異なる学校に通う期間が長くなることは地域・教育コミュニティの形成上望ましくないと判断し、平成29年度の新小学1年生から新小学5年生までを同時に変更する事務局提案に至ったものです。

	質問・意見等	回答等
7	学校区域の検討は、この地域だけでなく、豊中市のほかの地域でも同じような事例があると思うが、その話が出てくたびに、最終的に小中一貫教育の話が出てくる。「一小一中」ならば分かるが、「複数小一中」という形になれば、分割校を無くすということとどのようにつながるのか。小中一貫教育について、市民に説明できていないのが現状で、小中一貫教育をめざすと言われても不明瞭な回答だと感じる。子どもたちにしわ寄せがくる市政はおかしいというのが地域の方の思いである。地域が納得するような小中一貫教育を進めてほしい。	「一小一中」の校区は今のところ豊中市にはありません。分割進学ではない中学校区は、第八中学校、第九中学校、第十二中学校、第十四中学校、第十六中学校の5校区あります。小中一貫教育は、小学校と中学校で、めざすべき子ども像を共有するところから始まります。例えば、小学校から中学校にかけて連続して子どもたちを見守ることによって、不登校や問題行動の減少につながると期待されています。小中一貫教育は、分割校によってできないというわけではありませんが、分割校があれば、推進がしづらく、複数校と児童・生徒の情報を共有しなければならないので、教職員の負担も大きくなります。さまざまなことを勘案し、それぞれの校区に適した教育環境づくりを進めることによって、子どもたちに充実した教育を行うことができるものと考えております。小中一貫教育については、今事務局の中でも議論を深めているところであり、小中一貫教育の効果を示せるよう、検討を進めていきたいと考えています。
8	この校区変更によって、第九中学校の生徒数が増え、適正な教育環境が崩れていく可能性もある。その辺りも含めて取り組んでほしい。	持ち帰り、検討させていただきます。 【事務局の考え方】 第九中学校の教室不足も懸念される場所ではありますが、「学校規模と通学区域に関する課題の解消に向けた基本方針」の中で、第九中学校の将来推計において明確に教室不足が見込まれた場合、その時点において、第九中学校の検討に着手することとしております。
9	今回は小学校の保護者向けの説明会ということだが、資料の中には、中学校の子どもの推移がなかった。今後、第九中学校は人数が増えて、大規模校になると予想しているが、どのような状況か。	「学校規模と通学区域に関する課題の解消に向けた基本方針」には、「将来推計において、明確に教室不足が見込まれた場合は具体的な対応方策の検討に着手し、対応方策として、「施設の増設・充実又は隣接校との通学区域の変更のいずれかの方法により対応する」と定めています。将来推計で算出できる範囲において、平成31年度から1学年ずつ、新千里南町3丁目の生徒が第九中学校に通学することになった場合でも、第九中学校は教室不足にはならないものと考えております。
10	第九中学校の生徒数が増えていく可能性は大いにあり、第九中学校も東泉丘小学校のように校区変更になる可能性もあるのか。	南丘小学校区や新田小学校区でマンションの建設計画があり、将来的に生徒数が増える可能性は考えられますが、明確な数字が分からない中で、今から検討に着手することは考えておりません。
11	東泉丘2丁目について、第十五中校区から第十七中校区に変更する明確な理由が分からない。	主な理由として、小中一貫教育の推進が挙げられます。学びの「連続性」や「系統性」を確立するために、小学校と中学校の教職員が情報共有することによって、子どもの伸ばしたい力や留意すべき点などを小学校から中学校により円滑につなぐことができます。必ずしも分割進学がいけないということではありませんが、小中一貫教育を推進し、子どもの「連続した学びや育ち」を見通すという観点において、分割校はなくしたほうが良いと考えています。 また、新千里南町3丁目の中学校区が第九中学校に変更になると、約150人が第九中学校に移り、東泉丘2丁目の子どもたちが第十五中学校に進学した際は、1学年10人程度となり、同じ小学校出身の子がほとんどいないという寂しい状況になってしまいます。少人数で進学する子どもたちは寂しい思いをして慣れるまで時間がかかるなど、負担が大きくなります。その点も配慮し、新千里南町3丁目の通学区域を変更するタイミングに合わせて、東泉丘2丁目の中学校区も変更し、東泉丘小学校の出身の子どもたちは全員、第十七中学校に進学するという形をとりたいと考えています。
12	第十五中学校から第十七中学校に校区が変更になるという件だが、目の前にある第十五中学校に通えないというジレンマをもう少し考えてほしい。また、変更について、第十五中学校との話は進んでいるのか。	第十五中学校との調整につきましては、校長に情報提供をしている段階であり、地域に対して大々的な説明はできていない状況です。5月には、今後、どのような形で保護者や地域の皆さんに伝えれば良いか、関係校長に相談する予定です。また、保護者、地域住民向けの説明会を開催するのは、今回の東泉丘小学校が最初です。

	質問・意見等	回答等
13	資料の 13、14 ページの記載について確認したい。平成 29 年度の時点で兄弟のうち、上の子が東泉丘小学校 6 年生に在学する場合は、下の子も東泉丘小学校に通えるということだが、平成 31 年度の時点で、上の子が中学 3 年生で第十五中に在学する場合は、下の子は第十五中学校に入学できるという理解で良いか。	今回の事務局案では、そのように理解していただいて結構です。
14	平成 29 年度の時点で、上の子が中学 1 年生で、下の子が小学校 5 年生の場合、下の子は、東泉丘小学校ではなく、南丘小学校に通っていると思われるが、その場合でも、第十五中学校に入学できるのか。	今回の事務局案では、平成 31 年度に上の子が第十五中学校(3 年生)に在学しているので、手続きを行えば、下の子も第十五中学校に入学することが可能となります。
15	第十七中学校付近を普段、パトロール活動しているが、不審者が出没する。街灯を整備すれば良いのではなく、もう少し良い具体策を提示してほしい。	本市としては、何等かの「良い具体策」を持ち合わせているわけではありません。そのためには、地域の方々との協力が不可欠です。防犯カメラや LED 街灯の設置は、警察や市内の関係部局と協議しながら、進めていく必要があります。箕面市は、通学路等に約 750 台の防犯カメラを取り付けておられます。防犯カメラは、犯罪の抑止力という効果もありますが、一方で人権侵害につながりかねないという側面もあります。現時点においては、自治会等において防犯カメラの設置を検討しておられる場合は、危機管理課が所管している補助金制度をご案内することしかできません。本日いただいた意見は持ち帰り、市関係部局が集まる会議等で検討させていただきます。 【補足・事務局の考え方】 登下校時の安全確保は重要な観点ですので、今後、関係部局・機関・団体等と連携しながら、信号機の設置、横断歩道、通行注意喚起など必要な措置を検討してまいります。街灯につきましては、今年度、順次 LED 街灯に変更する予定です。また、防犯カメラの設置について、市は自治会の要望のもと、設置の補助を行っています。
16	東泉丘 2 丁目から第十七中学校までの通学ルートを、子どもと一緒に歩いて計ったが、説明よりも時間がかかるのではないか。	先ほどの説明では、二ノ切のバス停から、真っ直ぐバス道を南西に下るというルートで 21～23 分かかると申し上げましたが、二ノ切のバス停よりも北の地区からバス道に出てくるというところを換算していませんでした。一番遠い地区から、第十七中学校までのルートでは、約 25 分程度かかると考えられます。
17	東泉丘 2 丁目から第十七中学校までの通学ルートについて、起点となる場所は、私の住んでいるところより手前になるが、先日「ルート 1」を私の家から計った時は、約 25 分かかった。「ルート 2」は計っていないが、明らかに「ルート 1」より遠いはずなので、説明にあった時間(約 25 分)は正しいのか。	自転車やバイク等が通る狭い道路や、坂を上っていくような道路があるため、少し時間がかかることも想定されます。「ルート 2」は、「ルート 1」より距離はありますが、泉丘小学校の方面に下っていくような箇所もあります。子どもが歩くことを考えれば、若干の誤差はあると思いますが、我々がゆっくり歩いて計ったところ、約 25 分かかったことをお伝えしたものです。
18	私は第十五中学校のすぐ向かいに住んでいて、徒歩 5 分で通えるのに、約 5 倍もかかる第十七中学校に校区変更になれば、通学時の事故の危険性が増す。通学経路には街灯が少なく細い道や、歩道のない道があり、安全とは言えない。通学経路の安全が確保されていないのではないのか。	これまで第十五中学校と第十七中学校の通学経路で、大きな事故の事案はありませんが、想定される通学経路には大きな交差点など注意が必要になる箇所がありますので、今後、安全な通学経路の確保に取り組んでいきます。
19	事案がないというのは本当か。警察から色々な情報メールが来るが、第十七中学校までの通学路は安全か。	把握している限りにおいて、交通事故等の事案はありません。学校側から、安全な通学についての指導も必要と考えますが、今回、いただいた意見を参考にし、今後も安全な通学経路の確保に取り組んでいきます。

	質問・意見等	回答等
20	特に心配しているのは、通学経路に街灯が少なく暗い箇所があることである。私には娘がおり、向かいに第十五中学校があるのに、わざわざ暗い道を通って、第十七中学校に通わせないといけないことに不安と疑問を感じる。学校の考えを中心に話しているが、親の気持ちを考慮してほしい。	<p>今後は、校区変更に伴うメリット、小中一貫教育の成果などを示しながら検討を進めていきたいと考えております。また、通学経路の安全性については、「青少年健全育成会」や「子どもの安全見守り隊」など、これまで地域で活動されている方々と連携をとりながら、検討を進めていきたいと考えております。</p> <p>【補足・事務局の考え方】</p> <p>登下校時の安全確保は重要な観点ですので、今後、関係部局・機関・団体等と連携しながら、信号機の設置、横断歩道、通行注意喚起など必要な措置を検討してまいります。街灯につきましては、今年度、順次LED街灯に変更する予定です。また、防犯カメラの設置について、市は自治会の要望のもと、設置の補助を行っています。</p>
21	<p>校区変更については、一定理解はできたが、通学路の安全確保については、すぐに対策をとるべきである。狭い箇所については、道路の幅員をすぐに広げるのは難しいが、暗い箇所については、LED街灯を設置するなどして、速やかに対応すべきである。校舎増築に比べれば、安価で設置できると思うので、この場で、街灯を設置することを約束してほしい。</p> <p>また、豊中市は、箕面市、吹田市、伊丹市など周辺地域に比べると防犯カメラが圧倒的に少ないことで知られている。犯罪者は防犯カメラを避けるように、防犯カメラのない周辺地域に逃げていくため、豊中市に犯罪が集中するのではないかという懸念がある。ぜひ防犯カメラを設置してほしい。</p>	<p>持ち帰り、検討させていただきます。</p> <p>【補足・事務局の考え方】</p> <p>登下校時の安全確保は重要な観点ですので、今後、関係部局・機関・団体等と連携しながら、信号機の設置、横断歩道、通行注意喚起など必要な措置を検討してまいります。街灯につきましては、今年度、順次LED街灯に変更する予定です。また、防犯カメラの設置について、市は自治会の要望のもと、設置の補助を行っています。</p>
22	中学校の通学路規定は、小学校の規定ほど明確な指定はなかったと思うが、説明にあった通学路以外で子どもたちが通学する可能性もあるのではないか。	<p>小学校は通学路の指定がありますが、中学校は通学経路という形で、小学校の通学路のように明確に指定していません。中学校では、特に注意が必要な危険箇所について生活指導等で指導しています。今回は、主として想定される2つの通学経路(ルート)を提示させていただきました。</p>
23	今回の通学区域の変更は、距離が遠くなるうえに、暗い箇所も多い。(通学区域を変更するのであれば)環境の整備を必ずやってほしい。	<p>(意見・要望のため、回答しませんでした。)</p> <p>【補足・事務局の考え方】</p> <p>登下校時の安全確保は重要な観点ですので、今後、関係部局・機関・団体等と連携しながら、信号機の設置、横断歩道、通行注意喚起など必要な措置を検討してまいります。街灯につきましては、今年度、順次LED街灯に変更する予定です。また、防犯カメラの設置について、市は自治会の要望のもと、設置の補助を行っています。</p>
24	第十七中学校を増築するという話を聞いているが、どのような状況か。	<p>第十七中学校については、すでに増築が決まっており、平成28年度に4教室増設する予定です。現在の事務局案で行くと、平成31年度以降、1学年ずつ生徒が増えますが、東泉丘2丁目の1学年あたりの児童数は10人程度なので、増設する4教室で対応できるものと考えています。</p>